

令和2年度
印西市民アカデミーだより
 第10号

印西の石造物 -その4-

印西市内で庚申塔に次いで多く見かけるのが、月待塔と子安塔です。月待塔には、十三夜塔から二十三夜塔の11種類と二十六夜塔1種類の、合わせて12種類があります。特に、十九夜塔と子安塔は女人信仰の象徴として、一か所にまとまって立てられていることが多く、江戸時代後期に十九夜講が子安信仰に変化していく過程を見ることができます。



十九夜塔(宗甫)



二十三夜塔(上町)



十五夜塔(泉)



二十六夜塔(山ノ下)

市内の月待塔で一番多く見かけるのが、如意輪観音菩薩を刻んだ十九夜塔です。右腕で頬杖をついた優美な姿が印象的です。次が二十三夜塔で、勢至菩薩(せいしぼさつ)が刻まれているものがあります。市内では、ほとんどがこの2種類で、他の月齢の塔は珍しい。



(多聞院)

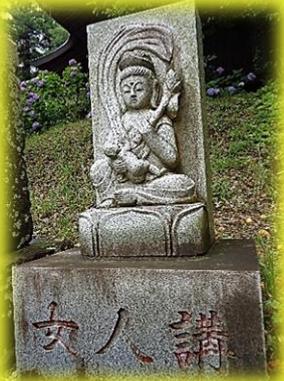


(宗甫観音堂)



(前戸コミュニティ)

子安塔には、子安観音(慈母観音・持児観音)が刻まれている。多門院と宗甫観音堂には、歴代の子安塔が建立されている。前戸集会所には、十九夜塔と子安塔が20基以上建立されていて、江戸時代～明治時代～大正時代～昭和時代～平成時代と女人講の歴史をたどることができます。時代を超えて子を慈しむ母の愛情が溢れ出ている姿に感動を覚えます。右の写真は、多聞院にある子安塔で、平成7年に造立されました。この子安信仰は、現在も地域住民に受け継がれています。



女人講